

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
民法要論Ⅰ【MR】 (Civil Law 1)	MPCA14	2	1年次	前期	高田 恭子(タカダ キョウコ)

授業のねらい概要	民法要論Ⅱとあわせて、民法の中の財産法の基本的構造、諸制度について学習する。民法要論Ⅰでは、法学の初学者が習得すべき法学の基礎知識、知的財産法における民法の役割(位置づけ)について確認した後に、財産法全般にわたる基本的事項を概観し、債権各論の中の契約(民法第3編2章)、民法総則(民法第1編)について学ぶ。民法の学習を通して、法を体系的に習得する基礎を滋養する。
----------	---

回数	テーマ	授業の内容・教育方法	予習/復習
第1回	私法入門	法学の基礎知識、民法の基本原則	講義で取り扱った該当箇所について、精読してとりまとめ、理解の確認をする。加えて、講義で出題する復習課題に取り組み、講義において口頭報告できるように準備する。予習・復習には、おおむね5時間の学習が必要となる。
第2回	民法の基礎知識	民法の構造、民法の適用と解釈	講義で取り扱った該当箇所について、精読してとりまとめ、理解の確認をする。加えて、講義で出題する復習課題に取り組み、講義において口頭報告できるように準備する。予習・復習には、おおむね5時間の学習が必要となる。
第3回	財産法の構造	物権と債権、権利(私権)の主張、権利の客体	講義で取り扱った該当箇所について、精読してとりまとめ、理解の確認をする。加えて、講義で出題する復習課題に取り組み、講義において口頭報告できるように準備する。予習・復習には、おおむね5時間の学習が必要となる。
第4回	契約の成立	契約の一生、契約の成立、契約の種類	講義で取り扱った該当箇所について、精読してとりまとめ、理解の確認をする。加えて、講義で出題する復習課題に取り組み、講義において口頭報告できるように準備する。予習・復習には、おおむね5時間の学習が必要となる。
第5回	契約の効力、契約の終了	売買契約の効力、双務契約における債権の牽連性、同時履行の抗弁権、危険負担	講義で取り扱った該当箇所について、精読してとりまとめ、理解の確認をする。加えて、講義で出題する復習課題に取り組み、講義において口頭報告できるように準備する。予習・復習には、おおむね5時間の学習が必要となる。
第6回	契約の終了	契約の解除、契約責任	講義で取り扱った該当箇所について、精読してとりまとめ、理解の確認をする。加えて、講義で出題する復習課題に取り組み、講義において口頭報告できるように準備する。予習・復習には、おおむね5時間の学習が必要となる。
第7回	権利の主体	権利能力、意思能力、行為能力、制限行為能力者制度	講義で取り扱った該当箇所について、精読してとりまとめ、理解の確認をする。加えて、講義で出題する復習課題に取り組み、講義において口頭報告できるように準備する。予習・復習には、おおむね5時間の学習が必要となる。
第8回	法律行為	法律行為の有効性、意思表示、心裡留保	講義で取り扱った該当箇所について、精読してとりまとめ、理解の確認をする。加えて、講義で出題する復習課題に取り組み、講義において口頭報告できるように準備する。予習・復習には、おおむね5時間の学習が必要となる。
第9回	意思表示①	虚偽表示、第三者の保護、94条2項の類推適用	講義で取り扱った該当箇所について、精読してとりまとめ、理解の確認をする。加えて、講義で出題する復習課題に取り組み、講義において口頭報告できるように準備する。予習・復習には、おおむね5時間の学習が必要となる。
第10回	意思表示②	錯誤、詐欺・強迫	講義で取り扱った該当箇所について、精読してとりまとめ、理解の確認をする。加えて、講義で出題する復習課題に取り組み、講義において口頭報告できるように準備する。予習・復習には、おおむね5時間の学習が必要となる。
第11回	代理①	代理制度の概説	講義で取り扱った該当箇所について、精読してとりまとめ、理解の確認をする。加えて、講義で出題する復習課題に取り組み、講義において口頭報告できるように準備する。予習・復習には、おおむね5時間の学習が必要となる。
第12回	代理②	無権代理、表見代理	講義で取り扱った該当箇所について、精読してとりまとめ、理解の確認をする。加えて、講義で出題する復習課題に取り組み、講義において口頭報告できるように準備する。予習・復習には、おおむね5時間の学習が必要となる。
第13回	法人制度	代理制度の復習、法人制度	講義で取り扱った該当箇所について、精読してとりまとめ、理解の確認をする。加えて、講義で出題する復習課題に取り組み、講義において口頭報告できるように準備する。予習・復習には、おおむね5時間の学習が必要となる。
第14回	時効	時効制度の概要、取得時効、消滅時効	講義で取り扱った該当箇所について、精読してとりまとめ、理解の確認をする。加えて、講義で出題する復習課題に取り組み、講義において口頭報告できるように準備する。予習・復習には、おおむね5時間の学習が必要となる。
第15回	講義の総括	法の適用と法の解釈、法の解釈と契約の解釈	講義で取り扱った該当箇所について、精読してとりまとめ、理解の確認をする。加えて、講義で取り扱った事例問題に取り組み、期末試験に備える。復習には、おおむね10時間の学習が必要となる。

到達目標	民法の基本的構造と、本科目で取り扱う制度趣旨と内容を理解する。とりわけ、法律要件が充足されると法的効果が発生する法的三段論法により、具体的な事例から法的効果を導くことができるようになる。 基本的な項目は以下の通り。 (1) 民法全体の中での各編の位置付けを取引の構造から理解する (2) 各制度の趣旨、法律概念、条文、要件・効果を正確に理解する (3) 判例・基本問題を具体的に理解する (4) 契約の一連のプロセスの中で法的効果をイメージできるようになる
評価方法	講義で出題する課題等の平常点と最終試験の成績を総合的に評価する。 平常点50% 試験50%
成績評価基準	到達目標である法的三段論法の取得は必ず修得しなければならない欠格条件である。その修得を20点として、他の達成目標を下記の基準で総合評価する。 A: 到達目標項目全てを総合して評価すると、90%以上の達成度で実施できている。 B: 到達目標項目全てを総合して評価すると、80%以上90%未満の達成度で実施できている。 C: 到達目標項目全てを総合して評価すると、70%以上80%未満の達成度で実施できている。 D: 到達目標項目全てを総合して評価すると、60%以上70%未満の達成度で実施できている。 F: 上記以外

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
リーガルクエスト民法Ⅰ 総則[第2版]	佐久間 毅 他	有斐閣	民法判例百選1 総則・物権	潮見 佳男 ほか編	有斐閣
新ハイブリッド民法4 債権各論	滝沢昌彦 他	法律文化社	民法判例百選2 債権	中田 裕康 ほか編	有斐閣

受講心得	講義には、教科書のほかに、必ず民法全条文掲載の六法を持参すること。これまでに民法の学習経験が無い受講者は、次の入門書のいずれかを読了の上で受講すること。米倉明『ブレップ民法』(弘文堂)、木山 泰嗣『弁護士が教える分かりやすい「民法」の授業』(光文社新書)、伊藤 真『伊藤真の民法入門』(日本評論社)。法的思考を養うためには、各受講者が主体的に学習を進める必要がある。本講義では、広い領域を取り扱うため、十分な予習および復習が必須になることを心得ること。また、復習課題については講義内で解説をするので、理解に努め疑問点を解消すること。本科目は録画メディア授業に対応している。
オフィスアワー	毎週火曜日15時20分～15時50分(高田研究室:1号館10F)